

## メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一3:1~5 「苦難に会う定め」

[1-2a]「そこで、私たちはもはやがまんできなくなり、私たちだけがアテネにとどまることにして、私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者であるテモテを遣わしたのです」

自分たちが福音を宣べ伝え、立て上げたテサロニケ教会のことをパウロたちは心配し、迫害の中にある彼らのために、宣教チームの一員であるテモテを送ることにした。テモテはメンバーの中で一番年が若かったと思われる。それでパウロは彼が軽んじられることがないように、「私たちの兄弟」であり、「キリストの福音において神の同労者」であると紹介する。

「兄弟」…イエス・キリストによって神を父と呼ぶ恵みに入れられた者どうしの関係で信仰をもつ者は皆、血のつながりがなくても神を父とする兄弟姉妹となる。

「同労者」…主なる神から与えられた使命に生きる者どうしのこと。

このような念入りなテモテについての言及は、彼が重要な任務に耐えうる人物であることを示すとともに、テサロニケの人々がテモテから受けた教えを堅く守るようにどの役割をはたしている。[2b-3a]「それは、あなたがたの信仰についてあなたがたを強め励まし、このような苦難の中にあっても、動揺する者がひとりもないようにするためでした」

ここではテモテを派遣した理由が述べられている。テサロニケ人たちはイエス・キリストを信じたその信仰により迫害を受けるようになった。そのような中にいる彼らの信仰を強め、励まし、動揺しないようにさせることがテモテを派遣した理由である。「動揺する者がひとりもないように」というところにパウロたちの愛の熱心が表れている。苦難によって動揺し、信仰を捨て、脱落する者がひとりもいてほしくない。これは完璧主義というよりも、どのような小さな者にも気を配る神の愛の視点に立って考えていることである。パウロたちが同胞のユダヤ人たちから迫害されたようにテサロニケのクリスチャンたちもテサロニケの町の人々から苦しめられ、迫害されている。そしてそれは彼らだけではなく、信仰を持つ者は皆多かれ少なかれこのような経験をすることになる。→Ⅱテモテ3:12

[3b-4]「あなたがた自身が知っているとおおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。あなたがたのところに行ったとき、私たちは苦難に会うようになる、と前もって言っておいたのですが、それが、ご承知のとおり、はたして事実となったのです」

「定められている」…神のみこころによって定められているという意味。キリストを信じる信仰を持ったがゆえに、さまざまな苦しみがやって来たとしても驚き恐れてはならない。それは神の深いご計画の中にあることなのである。

苦難や試練に関する聖書の個所→詩篇50:15、ヨハネ16:33、Ⅰコリント10:13、ローマ5:3~5、8:31、

## I ペテロ2:20~21

信仰者にとって必要なことは堅く信仰に立って試練に立ち向かうことである。

[5]「そういうわけで、私も、あれ以上はがまんができません、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦がむだになることがあってはいけないと思って、あなたがたの信仰を知るために、彼を遣わしたのです」

すでにさまざまな迫害や苦しみの中にあるテサロニケ人たちをパウロは何とかして強め励ましたいが、サタン（ここでは誘惑者と呼ばれている）の妨げによってそれができない。このままではせつかくの労苦がむだになってしまうかもしれない。それでパウロは彼らの信仰を知るために彼の代わりにテモテを派遣したのである。

私たちもイエス・キリストを信じる信仰のゆえにさまざまな苦しみ、誘惑、試練に出会うことがあるであろう。現にその渦中にある方々もいるかもしれない。しかし、それらのことは神がご存じで、すべて神のみこころのうちに起こってくることである。そのような時に私たちは逃げ出したり、妥協したりするのではなく、堅く信仰に立って神のみことばの約束を信じて歩いていくことが必要である。

最後に I ペテロ5:7~11